

「わかった！」がえられる 教室をめざして

～ 一人一人の学習状況に応じたきめ細やかな指導の取組 ～



平成 26 年度 きめ細やかな指導・学び研究推進校 実践事例集

川崎市教育委員会

はじめに

平成 27 年度より、川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」第 1 期実施計画が施行されます。この「かわさき教育プラン」は平成 26 年に市制 90 周年を迎えた川崎市が、社会が激しく変化するこの時代において、10 年先を見据えてどのような子どもたちを育てていきたいかを示した計画です。

新しいプランの基本目標は「自主・自立」と「共生・協働」です。

これらは、変化の激しい社会においても、誰もが夢や希望を抱き、充実した人生を送るため、また社会を持続的に発展させていくために、「生涯にわたって学び続け、自立した個人として生きていく力を一人ひとりが身に付けること」、そして「自立した個人が、多様な価値観を認め合い、互いに支え合い、高め合う精神を持ち、生きがいのある社会を協働してつくりだしていくこと」が大切であるとして定められました。

平成 26 年度川崎市立小中学校学習状況調査における「生活や学習についてのアンケート」では、授業の理解度について、「授業がわかる、どちらかと言えばわかる」と答えた児童生徒の割合は、国語では小学校 5 年生で 91.1%、中学校 2 年生で 84.7%、算数・数学では小学校 5 年生で 85.1%、中学校 2 年生で 71.5%となっており、小学校、中学校いずれにおいても増加傾向にあります。

総合教育センターでは、学校と共に「授業力向上」の研究・研修に取り組み、平成 23 年 3 月に「授業力こだわりハンドブック」、平成 24 年 3 月に「授業力こだわりハンドブックⅡ」を発行しました。拡大要請訪問や授業研究会等で学校へ訪れる度に、先生方が授業研究に真摯に取り組み、学校をあげて「授業力」の向上に努めていることを感じます。「授業がわかる」児童生徒の増加は、先生方の地道な取組の表れなのだと確信しています。

各学校においてこのように「授業力向上」をめざし、授業研究会や校内研修等で授業について見つけ、語り合ってきたことで、授業がわからない子どもの様子も明らかになりました。授業がわからないと感じている子どもたちを、どのようにしたら「わかった」に変えることができるのか、どうしたら全員が「わかった」と感じるができる授業ができるのか、このような願いはすべての教職員にあるのではないのでしょうか。

現行の学習指導要領では、「各教科等の指導に当たっては、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。」として、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善の必要を示しています。

新しいかわさき教育プランにおいても、基本政策Ⅱの取組内容として「確かな学力の育成」を掲げ、社会を生き抜くために必要な「生きる力」を、一人一人に確実に身に付けることを目指しています。

一人一人に確かな学力を育むよう、個に応じたきめ細やかな指導を行い、全員が「授業がわかる」ことを目指す取り組みが、平成 26 年度から始まりました。本年度は、きめ細やかな指導・学び研究推進校において研究を進め、その成果をまとめました。本冊子は、個に応じてきめ細やかに指導する方法としての少人数指導の取組、特に、習熟の程度に応じた指導の方法とグループ編成、それを可能にする学校体制づくり等の工夫改善により、子どもたちの「わかった！」があふれることを目指した研究推進校の取組を掲載しております。

本冊子を各学校で活用していただき、子ども一人一人を大切に、確かな学力を身に付ける取組を進めていただくようお願いいたします。

平成 27 年 3 月
川崎市総合教育センター

目次

第1章 きめ細やかな指導・学びを考える

- 1 児童生徒の実態 . . . 3～4
- 2 きめ細かく児童生徒を見る . . . 5～6
- 3 「分かった！」を生み出すきめ細やかな授業 . . . 7～8

第2章 学習形態の工夫できめ細やかに指導する

- 1 習熟の程度に応じた少人数編成
実践例1 <東柿生小学校：算数>
単元のまとめで習熟度に応じたコース別授業を実施しました . . . 9
実践例2 <橘小学校：算数>
第5, 6学年で習熟度に応じたコース別授業を実施しました . . . 10
実践例3 <南生田小学校：算数>
学年末のまとめにおいて、児童の振り返りから、習熟の程度
に応じた指導に取り組みました . . . 11
実践例4 <塚越中学校：数学>
単元のまとめで、習熟の程度に応じた授業を実施しました . . . 12
実践例5 <南大師中学校 数学>
授業のまとめで習熟の程度に応じた問題を解きました . . . 13
- 2 等質分割での少人数編成
実践例1 <橘小学校：算数>
第4学年で1学級を2つに分けて授業を実施しました . . . 14
実践例2 <南大師中学校 英語>
1学級を2つに分けて少人数で授業を進めました
<南大師中学校 保健体育>
男女の体力差を考慮した男女別の学習に取り組みました . . . 15
- 3 ティーム・ティーチング . . . 16～17
- 4 少人数グループによる活動の充実 . . . 18～19
- 5 さまざまな機会を活用する . . . 20

第3章 学校の体制を見直そう

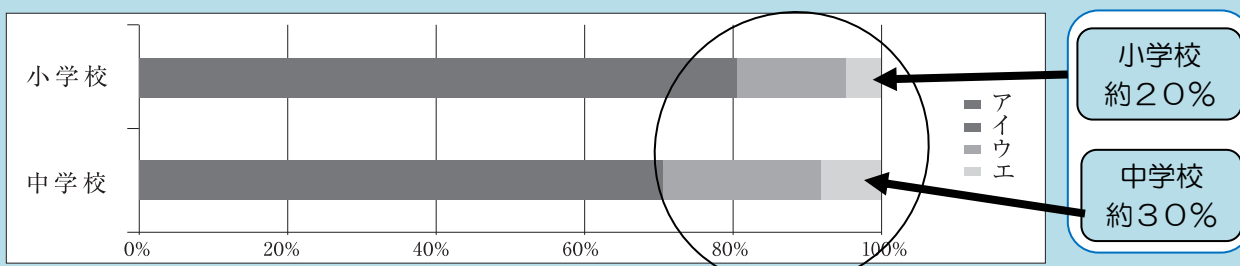
- 1 教員集団の意識を高め組織的に取り組みましょう . . . 21
- 2 児童生徒や保護者の理解を図りましょう . . . 22
- 3 学校全体できめ細やかな指導に取り組みましょう . . . 23

1 児童生徒の実態

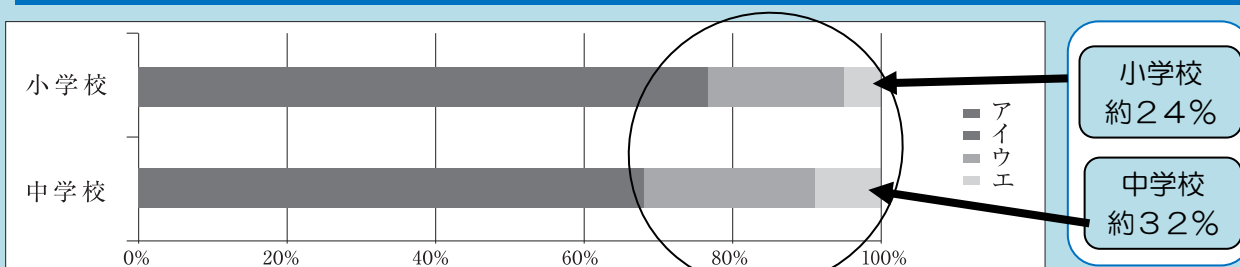
全国学力・学習状況調査の結果に見る川崎の児童生徒

○平成26年度 全国学力・学習状況調査結果 児童生徒質問紙調査

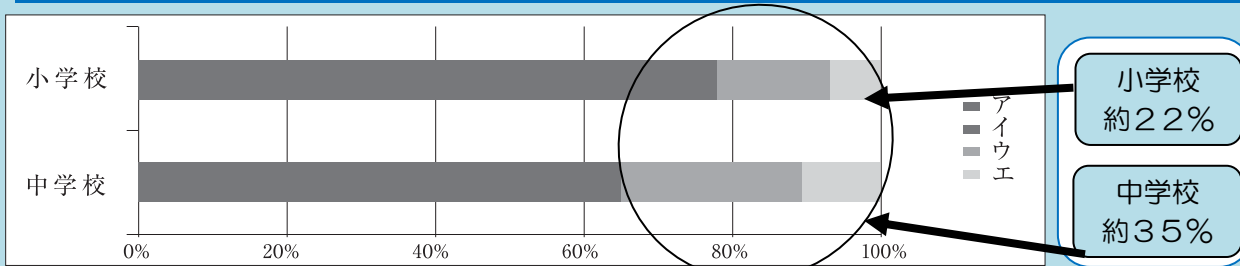
質問1 授業の内容はよく分かりますか



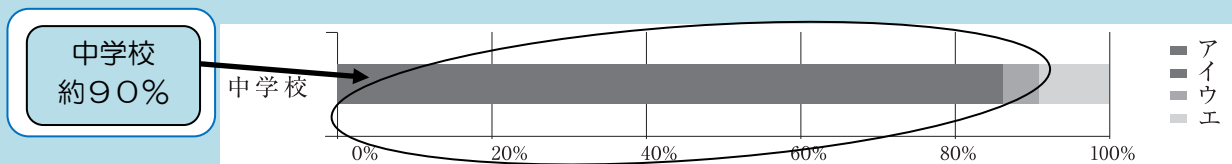
質問2 問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



質問3 自分にはよいところがあると思いますか



質問4 数学ができるようになりたいですか。



小学校6年生では、約20%の児童が、「授業が分からない」、約24%が「問題の解き方が分からないときはあきらめてしまう」、約22%が「自分には良いところがあると思えない」と回答している状況にあります。中学校では、学習内容が難しくなるともに、「授業が分からない」、「あきらめてしまう」、「自分のよいところがあると思えない」と感じる生徒が増える一方で、約90%の生徒が「できようになりたい」と回答している現状があります。

児童生徒の実態についての教員の実感

調査結果とともに、日々の授業の中で実感していることもあります。例えば、こんな実感をもっていませんか。



子どもは「分かった」というけれど、本当に分かっているのかなあ。でも「分からない」と言う子どもがいても、その子どもの学習状況に応じた指導ができるのかなあ。

先生は「分かりましたか？」って聞くけれど、みんなが「分かりました」と言うから、一人だけ「分かりません」と言いにくいなあ。それに何も言わなければ授業は終わるし。でも、本当は、勉強が分かるようになりたいなあ。



すべての児童生徒に「分かってほしい」と願う教員。そして、「分かりたい」「できるようにになりたい」と願う児童生徒。

「分からない」が「分かった」に変わるために、どのようなことが大事で、どのような取組が必要なのでしょう。

川崎の児童生徒は、おおむね授業が「分かる」と感じています。しかし、すべての児童生徒が「授業が分かる」ことを実感できるようにするために、一人一人に寄り添い、基礎・基本の確実な定着をめざして、より意欲や達成感の高まる指導や学力差への対応等、一人一人の習熟や関心等に応じた「きめ細やかな指導」が必要です。

授業が分かる



達成感や充実感



自己肯定感

今年度、すべての児童生徒が「授業が分かる」ことを目指した「きめ細やかな指導・学び」について、小学校3校、中学校2校が研究に取り組みました。各研究推進校が、児童生徒の実態に応じて学習形態や指導の工夫を行い、確かな学力の定着を図りました。

本書は、5つの研究推進校の取組として、きめ細やかな指導と児童生徒の学びを紹介しています。この事例から、各学校でのこれからの取組を探っていただきたいと思います。

平成26年度 「きめ細やかな指導・学び研究推進校」

東柿生小学校

南生田小学校

橘小学校

塚越中学校

南大師中学校

2 きめ細かく児童生徒を見る

きめ細やかな指導を行うためには、児童生徒の学習状況をきめ細かく把握することが大切です。それによって、児童生徒が何につまずいているのか、どこで困っているのかに気付くことができるとともに、つまずきや困り感を踏まえた授業をつくることができます。

困り感を感じる授業って？

児童生徒が困り感を感じる授業って、どんな授業でしょうか。例えば次のような授業を挙げました。

授業のねらいが明確でない授業

少数の子どもの「分かった」で進んでしまう授業

「分からない」ことが「分からない」授業

何をしたらいいか「分からない」授業

板書やノート指導がなくあとで振り返ることのできない授業

困り感や「分からない」を大事にした授業に

困り感を感じないような授業をすることは大切なことですが、困り感や「分からない」は授業の重要な財産でもあります。困り感や「分からない」を教師が捉えたり、児童生徒自身が把握したりすることで、困り感や「分からない」を大事にした授業を展開することができます。

「分からない」ことをもとにする

例えば、既習事項、既有知識とのズレをもとにして授業が進められます。

○既習事項と提示された資料の内容とのズレを見だし、そこから学習問題を設定して追求する。(社会)

○新出文法事項導入時に、既習事項と場面設定から新しい表現の意味や言語形式に気付く。(英語)

○単元の学習前に、これから学習する内容の既有知識を表出させて、分からないことに気付く。(理科)

「分かった」への道筋に気付く

「分からない」が授業で「分かる」ようになるための見通しをもたせます。

○机間指導、ノート指導で個別に対応したり、グループ学習で学習方法に気付いたりします。

「分からない」ままにしない

単元の終わりに自分の「分からない」を振り返り克服します。

○振り返り問題等で自分の学習状況を把握し、じっくり時間をかけたり、繰り返したりする学習に取り組みます。

「分からない」ことを自分自身で把握することで、それが学習の出発点になり、主体的な学習が行われることが期待されます。そして、児童生徒一人一人の「分からない」への手立てを教師が講じることが、きめ細やかな指導につながります。

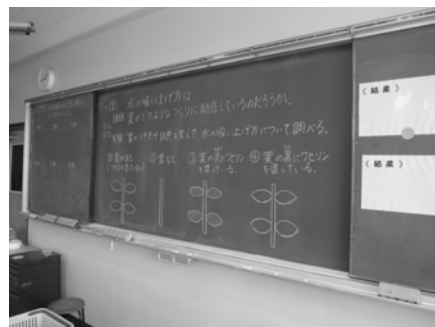
「分からない」を把握する方法

児童生徒の困り感や「分からない」を把握するために、「分からない」を可視化する工夫が必要です。

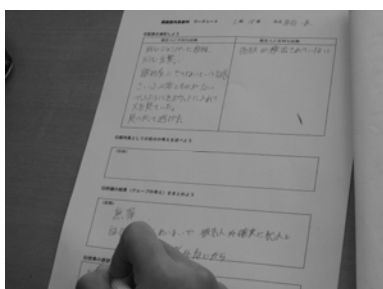
板書の工夫

例)

- 1時間で1枚の板書にする。「課題提示→見通し→解決方法→まとめ→振り返り」など、児童生徒が学習の流れを振り返ることができる。
- 児童生徒の考えが黒板に示され、比較ができる。



学習カードやワークシートの工夫



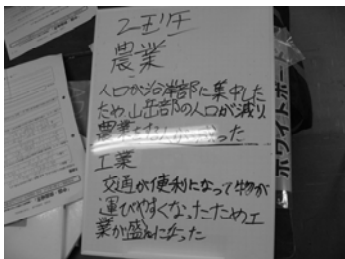
例)

- ねらいと振り返りを記入することで授業の目標についてどの程度実現できたかを記入する。
- 穴埋めではなく、自分の考えを書くことができるようにして、考えの変化を捉えるようにする。
- 単元の学習の足跡が分かるようなワークシートにする。

机間指導の充実

例)

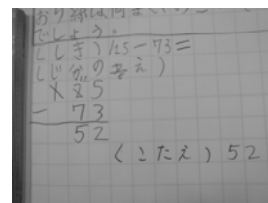
- 個人やグループ等での学習活動を行い、机間指導できる時間をつくる。
- グループでの話し合いのようすがわかるようにホワイトボード等を利用する。



問題による確認

例)

- 授業の振り返りで、本時の評価規準に則った確認問題を行う。
- 既習事項に関する問題に取り組む機会をつくる。



「分からない」を可視化することは、教員にとっての学習状況の把握だけでなく、児童生徒が自分の学習状況を把握する目的があります。それによって「分からない」ことが「分かる」喜びを感じられることが期待されます。

3 「分かった！」を生み出すきめ細やかな授業

すべての児童生徒が「分かった！」と実感できる授業をつくるための、きめ細やかな指導について考えましょう。

「分からない」が言える授業の雰囲気的大事

「分からない」は恥ずかしくない

- ・「分からない」と言ってもよい学級集団づくりが大事です。
- ・「分からない」が「分かる」に変わることを価値づけましょう。

「分からない」を共有しましょう

- ・みんなの「分からない」を共有しましょう。
- ・「分からない」を協働的にみんなで解決するようにしましょう。

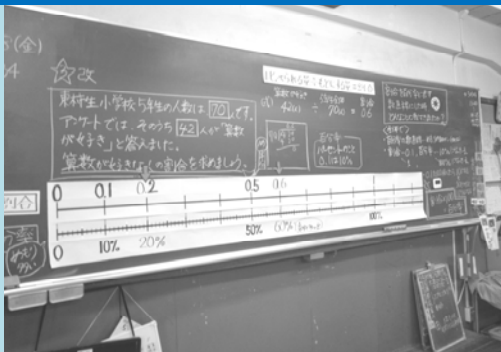
「分かった」につなげる手立てを

「分からない」がきっかけや起点となって学習が進められるような手立てを取ることが重要です。

教材の工夫で「分からない」を「分かった」に

例)

- 具体物や映像資料等で考えを深め、広げる。
- 実験等の体験的活動で児童生徒の認識のズレを解消する。
- 一人一人の学習状況に応じたワークシートの工夫を行う。



児童生徒同士の活動で「分からない」を「分かった」に

例)

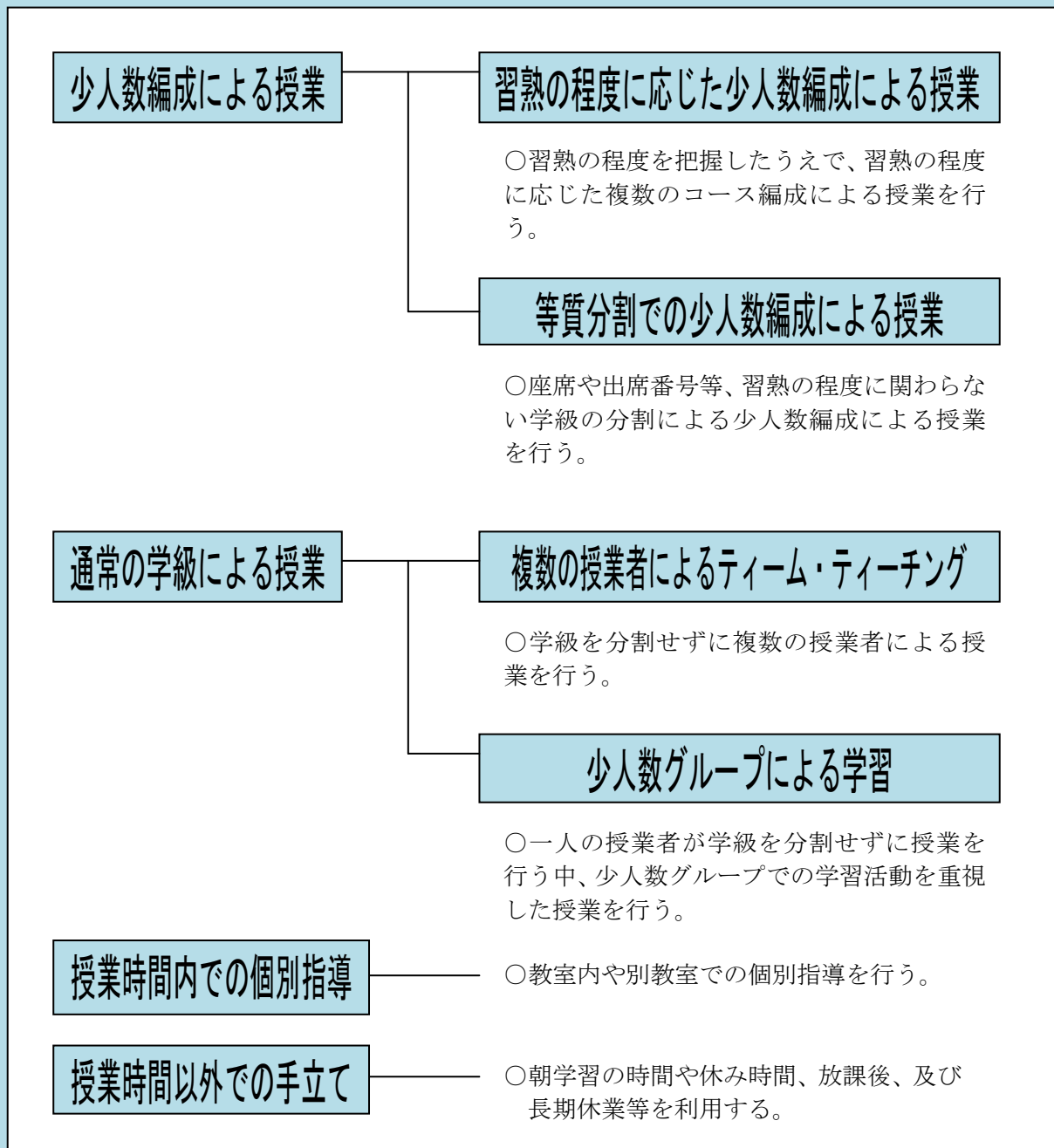
- 適切な課題を設定し、協働的な課題解決を支援する。
- 他者との関わりや相手に伝える活動を通して、自分の考えをより深めていく。

「分からない」が「分かる」に変わることを支援する観点で、きめ細やかな指導を考えるとよいでしょう。丁寧に指導することがきめ細やかさなのではなく、児童生徒が主体的に「分かる」を実感する手立てを一人一人に応じて講じることがきめ細やかさにつながります。

授業が「分かる」を実感するためには、児童生徒同士の協働的な学びと教員の適切な支援が大切です。そして、これらを促進するきめ細やかな指導が必要です。

きめ細やかな指導を行う授業形態

児童生徒の学習状況に応じたきめ細やかな指導を行うための形態として、研究推進校では次の授業形態で実践を行いました。



次章で、各研究推進校のきめ細やかな指導の実際を、授業形態ごとに紹介し、指導の工夫やポイントを示しました。

1 習熟の程度に応じた少人数編成（実践例1）

<東柿生小学校：算数>

単元のまとめで習熟の程度に応じたコース別授業を実施しました

1 編成の工夫

【ぐんぐんコース】

【どんどんコース】

【がんがんコース】

第6学年の算数において、各単元のまとめで習熟の程度に応じたコース別授業を実施しました。設定したコースは次の3つです。

【ぐんぐんコース】は自力での課題解決が難しいことを考えて、コースの担当教員（T1）の他、少人数指導教員と児童支援コーディネーターがT2、T3として指導に加わりました。

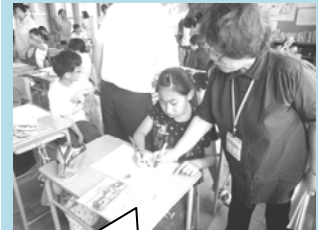
3つのコースを編成するために、朝基礎学習で確認テストを行い、学習状況の把握を行いました。その結果等をもとにして教員が助言しながら、児童自身で参加するコースを選択しました。

2 指導の工夫

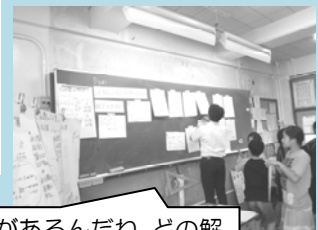
【ぐんぐんコース】教科書の例題より簡単な問題を用います。3人の教員により児童が安心して質問できる環境をつくり、計算の方法を確認しながら自力で問題を解くことを支援し、達成感を味わうことができるように配慮しました。

【どんどんコース】最も理解度に差のあるコースになりました。全員がねらいを達成できるようにするため、教科書の例題よりやや簡単な数値を用いた問題に取り組みながら、集団で課題を解決し達成感を味わうことができるように配慮しました。

【がんがんコース】自分が解けるだけでなく、友達や下級生にも説明できるようにすることを目標にし、自分の考えを伝え合う活動を取り入れました。互いの考えを出し合う中で、よりよい解き方等を協働的に見いだす様子が見られました。



先生に聞きながら問題がとけたよ！



いろんな考え方があるんだね。どの解き方が一番分かりやすいかな？

3 指導のポイント

☆どのコースも自力での解決を支援しました。細かく丁寧に教えることだけが「きめ細やか」なのではなく、児童が自ら学んでいくことができるようにすることが大事です。

☆単元のまとめで実施することで、児童が自分の学習状況を把握して自らコースの選択ができるようにしました。しかし、適切なコース選択には教員の助言が必要です。

1 習熟の程度に応じた少人数編成（実践例2）

<橋小学校：算数>

第5、6学年で習熟の程度に応じたコース別授業を実施しました

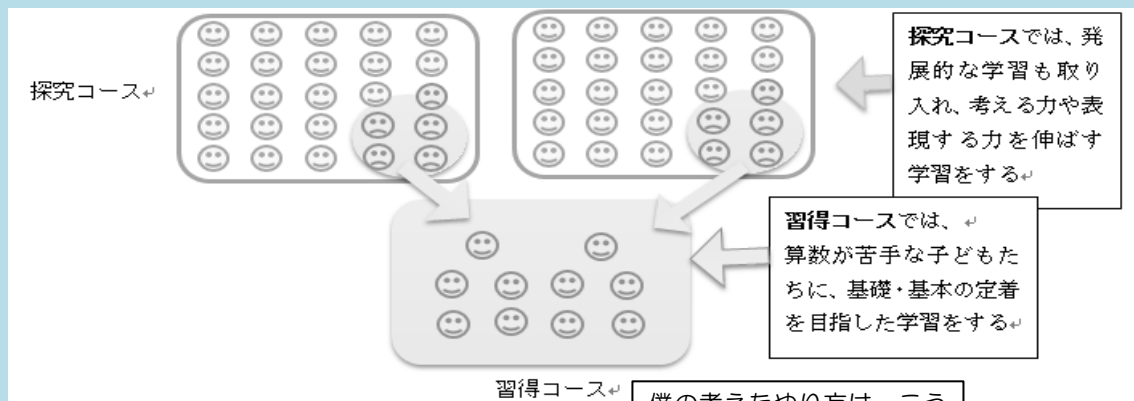
1 編成の工夫

【探究コース①】

【探究コース②】

【習得コース】

第5、6学年の算数において、年間を通して、習熟の程度に応じたコース別授業を実施しました。設定したコースは次の2つです。



2 指導の工夫

どちらのコースも授業のねらいは同じで、進め方をかえました。

【探究コース①②】 授業の冒頭に課題を提示し、児童の様々な解き方について意見交換する授業

【習得コース】 はじめに具体物を使って、既習事項の振り返りや問題場面等を確認してから、課題に取り組む授業

僕の考えたやり方は、こういうことだよ。
共通していることはこういうことだよ。



3 指導のポイント

円柱をつくと底面の形と高さの関係がよく分かるな。問題が解けるようになると楽しい！

☆探究コースでは、問題を解くときに様々な考えを出し合い、それを交流することで問題解決する力を付けたいと考えました。習得コースでは、具体物を使って場面を把握してから、問題を解く力を付けたいと考えました。児童の実態に合わせた教材の工夫や質問しやすい雰囲気をつくるのが大切です。

☆学習を積み重ねるためには、授業のまとめで確認問題を解き、今日の授業で「分かった」「できた」を実感させることが大切です。

1 習熟の程度に応じた少人数編成（実践例3）

＜南生田小学校：算数＞

学年末のまとめにおいて、児童の振り返りから、習熟の程度に応じた指導に取り組みました

1 編成の工夫

【じっくりコース】

【発展コース】

第3学年の算数において、学年末のまとめで、習熟の程度に応じたコース別授業を実施しました。児童がこれまでの学習を振り返り、自分の課題に応じてコースを選択しました。設定したコースは次の2つです。

【じっくりコース】は、少人数担当が指導しました。学年のまとめにおいて、これまでの学習を振り返り、「まだよく分からない」「むずかしい」という内容について、重点的に取り組みました。

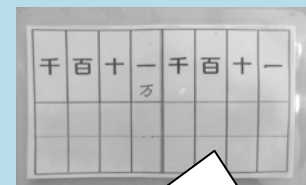
2 指導の工夫

【じっくりコース】1時間の学習活動を、＜じっくり＞→＜チャレンジ＞→＜振り返り＞の3つに分けて取り組みました。教員が児童の思考に応じて具体物を提示し、じっくり問題解決に取り組む場面、児童が自力で解決し説明するチャレンジの場面、学習を振り返る場面を設定しました。チャレンジの場面では、発展コースの＜ルビー問題＞を準備し、発展コースの児童と同じ問題に取り組むことで、児童に達成感をもたせるような工夫をしました。

【発展コース】＜ルビー問題＞→＜サファイア問題＞→＜ダイヤモンド問題＞と難易度がステップアップしていくような学習プリントを準備しました。プリントのネーミングも児童のやる気を引き出すように工夫しました。じっくりコースに比べ人数が多いため、教員は机間指導をしながら児童の学習状況を確認し、個別に対応しました。



2番目に大きな数にするのだから、1番大きな数を作って、小さい位の数動かして考えてみるといいのかな。



児童の手元に置く位取り表は、児童が必要に応じてホワイトボードマーカーで数字を書いたり消したりと繰り返し使えるようにラミネートしました。

3 指導のポイント

☆児童が1時間の中で「できた！」と達成感を味わえるように、プリント1枚あたりの問題数や内容を厳選することが有効です。

☆算数を苦手と感じている児童が困ったことや分からないことについて質問することができるような雰囲気をつくるのが大切です。

1 習熟の程度に応じた少人数編成（実践例4）

〈塚越中学校：数学〉

単元のまとめで習熟度に応じた授業を実施しました

1 編成の工夫

【標準クラス】（発展的な内容）【基礎クラス】（基礎的・基本的な内容）

第2学年の数学の「平行と合同」の単元のまとめで習熟の程度に応じたクラス別授業を実施しました。設定したクラスは次の2つです。

単元のまとめで生徒の学習状況に応じて、学級を2つに分けて習熟の程度に応じた少人数指導を実施しました。

単元末における学習状況で、標準クラスは「おおむね満足できる」状況（B）、「十分満足できる」状況（A）の生徒を対象に、基礎クラスは「努力を要する」状況（C）の生徒を対象に授業を行いました。クラスの選択は、生徒の希望を尊重しました。

2 指導の工夫

【標準クラス】 単元計画に3時間程度位置付けて、学習内容をさらに深めるために、既習として身に付いていることを発展させて活用する学習や実際の社会と結びつける学習を展開しました。数学への関心・意欲・態度が高められるように工夫しました。

【基礎クラス】 単元計画に3時間程度位置付けて、単元での付きたい力を実現するために、生徒の習熟が不十分であった内容を中心に、具体物などを使った活動を位置付けて、学び直しや振り返る学習を展開しました。学習内容の確実な習熟や理解が深まることが期待されます。



数学って奥が深いな。こんなこととつながっていたんだ。



あのと時の合同条件が分かった、もう一度やってもらってよかった

3 指導のポイント

☆単元末で実施するために、日頃の授業から、一人一人をきめ細かく指導して、生徒の理解が不十分である内容を把握することが大切です。

☆数学が得意な生徒には、数学のよさや楽しさを実感させること、数学な苦手な生徒には、理解が不足している内容を学び直す機会にすることが必要です。

1 習熟の程度に応じた少人数編成（実践例5）

<南大師中学校：数学>

授業のまとめで習熟の程度に応じた問題を解きました

1 編成の工夫

【スタンダード問題】

【チャレンジ問題】

第1学年の数学において、最初にTTで授業を行い、共通の課題を解決した後に、まとめで習熟の程度に応じた問題を解きました。問題は次の2種類を準備しました。

【スタンダード問題】は基礎的・基本的な問題、【チャレンジ問題】は、少し難しい問題と発展的な問題を用意しました。生徒には、同じプリントを渡して、生徒自身が選択して、どちらの問題にも取り組めるようにしました。

前半の課題提示からまとめまでは、4人グループの協働的な学びを展開し、授業内容を振り返るときに、教室内で2つのコースに分かれて問題に取り組みました。

2 指導の工夫

【スタンダード問題】 教科書の例題より簡単な問題、教科の練習問題程度の問題を用意しました。解説から丁寧に行い、生徒が自力で問題を解けるようになることを支援しました。「分かった」「できた」という達成感を味わうことができるように配慮しました。

【チャレンジ問題】 教科書の章末問題や発展的な問題、生活や社会で活用する問題等を用意しました。学習内容を活用して、生徒が主体的に取り組めるように支援しました。「なるほど」「そうか」という充実感を味わうことができるように配慮しました。



先生に聞きながら大切なポイントが分かったよ！



今日やったことが、どこで使えるかな？

3 指導のポイント

☆前半のTTのときに、生徒一人一人をきめ細かく指導をして、まとめの段階で生徒の実態にあった問題を選択できるように支援することが大切です。

☆授業のまとめで実施することで、生徒が授業を振り返り、自ら問題選択ができるようにしました。しかし、適切な問題選択には教員の助言が必要です。

2 等質分割での少人数編成（実践例 1）

<橘小学校：算数>

第4学年で1学級を2つに分けて授業を実施しました

1 編成の工夫

【座席配置の工夫】

【授業への参加方法】

【プリント学習の充実】

第3学年でTT、第4学年で少人数編成、第5、6学年で習熟の程度に応じた少人数編成と、段階的に実施することで、児童によりきめ細かく指導することができるようにと考えました。また、「分かる」ことが「喜び」につながるような学習経験を積み上げていくことで、主体的に学習に参加する児童が多くなることを期待しました。

第4学年の算数において、年間を通して、1学級を2つに分けて少人数編成での授業を実施しました。名簿順に分けて、単元ごとに入れ替えました。

2 指導の工夫

【座席配置の工夫】 普通教室では、席を移動して、少人数教室では、普通教室の半分ほどの広さの教室を使用して、教員と児童、児童と児童の距離を近づけました。このことにより、教員は一人一人の学びを見取りやすくなり、児童は近くの人と相談したりすることができて、安心して学ぶことができるようになりました。

【授業への参加方法】 少人数で行うことにより、多くの児童が、自分の分かったことや気付いたことを発表する機会が増えました。困っていることも発言できるようになり、自信をもって学習に取り組めるようになりました。

【プリント学習の充実】 習熟を図るときには、プリントを用意して問題に取り組みました。一人一人の学習状況を把握することができて、分からない児童や困っている児童への指導や支援も的確に行うことができました。



困っていると、直ぐに先生に聞くことができるから安心です。



気が付いたことや困ったことが言えるので、授業が分かるようになりました。

3 指導のポイント

☆学年内でこれまで以上に情報交換を行って、内容や進度を揃えました。児童に実態応じた教材研究や指導方法を充実する必要があります。

☆児童の一人一人の学習状況を把握して、児童のつまずきを共有しました。板書、ワークシート、机間指導等、一人一人の学習状況を適切に把握することが大切です。

2 等質分割での少人数編成（実践例2）

〈南大師中学校 英語〉

1学級を2つに分けて少人数で授業を進めました

1 編成の工夫

第1学年では、1学級2分割の少人数授業を展開しました。第1学年の段階では、学習する文法事項が少なく、習熟の差が小さいため、名簿で単純に2つに分ける少人数編成を採用し、それぞれ英語科教員1名が指導にあたりました。

2 指導の工夫

授業内容は単元計画に基づき、学年の主担当が計画し、教材やワークシートを共有して授業を進めました。ペアワークやグループワークも取り入れ、生徒が主体的に英語を使う場面を設定しました。

3 指導のポイント

☆人数が少ない分、個々の生徒の動きがよく見えます。少人数編成を生かし、全体で練習するだけでなく、個別に練習する時間を確保したり、ペアやグループ活動での机間指導を増やしたりすることが大切です。



〈南大師中学校 保健体育〉

男女の体力差を考慮した男女別の学習に取り組みました

1 編成の工夫

第2学年の球技では、男女の体力に差があることから、男女別の学習にしました。また、女子は技能面でも課題が多いため、2名の教員が指導にあたりました。

2 指導の工夫

男女別の学習によって、男子には力をもてあますことなく積極的に活動させることができ、技能を高めることができました。また、女子には球技への恐怖心を軽減し、活動量を増やして、学習活動に取り組ませることができました。

3 指導のポイント

☆男女に体力差がある場合は、単元内容によって、男女別の学習も効果的です。さらに女子生徒の技能面の向上をめざすには、複数の教員による指導も有効です。



3 ティーム・ティーチング

「安心感」を大切にしたTT指導 (橋小：算数)

3～6学年を見通して、指導の形態を工夫

○T1が授業を進め、T2が机間指導をきめ細かく行き、T1の指示を詳しく説明したり、困っている子どもに丁寧にアドバイスしたりしました。

第3学年から、整数の除法、小数や分数の加減の学習が始まり、算数に苦手意識をもつ児童や学習が遅れがちになる児童がいることが現状です。そこで、第6学年までの学習を見通して、第3学年でTT、第4学年で等質分割による少人数授業、第5、6学年で習熟の程度による少人数授業を実施しました。



T1の指示がよく伝わっていない児童にT2が説明することで、児童も「何をするか」が分かるようになりました。児童の実態に応じて指示を行うには日頃の観察が大切です。

2人の教員の目で丁寧に児童を見取り、児童が取り組んだことについて認める声掛けを繰り返しています。児童は「できた」喜びを感じ、さらに次の活動に対して、意欲的に取り組むようになりました。

第3学年では「安心感」を大切にしました。T1とT2で情報交換を行いながら個に応じた指導を繰り返すことで、一人一人が安心して授業に取り組み、自信をもって学習する姿が見られるようになりました。

☆第3学年において、TTを効果的に活用して、確実に基礎的・基本的な知識や技能を習得させたいと考えました。また、安心して自分の考えを言うことができる環境にすることで、第4学年以降の少人数学習になっても、自分の考えを伝えることができるようになります。

少人数学級の中で、さらにTTで指導する (東柿生小：算数)

○習熟の程度に応じた少人数編成で、習熟の程度に遅れが見られるコースにおいて、TTを行いました。

【ぐんぐんコース】

T1：コースの担当教員

T2：少人数指導教員

T3：児童支援コーディネーター

(⇒P. 9)



☆習熟の程度に応じた編成でも、遅れの見られる児童には、さらにきめ細かい指導が必要だと判断しました。少人数編成の中での個別指導等も効果的だと考えました。

2人の教員で2つの課題に取り組む (塚越中：理科)

○理科室の前方グループ、後方グループでそれぞれ異なる教員が、異なる実験を行います。授業の後半で、教員が入れ替わり、それぞれもう一つの実験を行いました。

1人の教員で同時に2つの種類の実験を行うことは困難ですが、2人の教員が1つずつの実験を担当して実施しました。

生徒が実験方法を教員に確認したり、教員が実験の安全確認をしたりしやすくなります。

2人の教員が実験の説明を行っています。



☆生徒数が通常授業の半数のため、各班に目が行き届き、丁寧に指導することができました。

☆一人一人の評価を適切に見取ることができました。

☆きめ細やかな指導により 観察・実験の技能が高まりました。

T2の補足説明が理解を深める (南大師中：数学)

○**T1**の全体への説明が、なかなか生徒に理解されなかった時、**T2**が表現を変えて補足説明します。



☆教員が2名関わることで、同じ課題に対して、異なる視点からアドバイスをすることができます。

2名の教員で、女子の技能面の課題に対応する (南大師中：保健体育)

○球技の単元において、男女別学習を取り入れ、男女の体力差に対応します。さらに女子の技能面の課題に対応するため、女子の指導には**2名の教員**が対応します。

T1 T2



☆男女別に分け、さらに女子の指導を2名で行うことにより女子生徒が安心して授業に取り組んでいます。

4 少人数グループによる活動の充実

少人数グループで学習活動を行うことも、きめ細やかな学びにつながります

○少人数編成での授業が行われない場合でも、少人数グループでの学習活動で子ども一人一人の学びを活発にして、学習効果を高めようとすることは「きめ細やか」な学びです。



ペアや少人数グループによる意見交換を行っています。全体での発言に自信がもてなかったり、学習に遅れを感じたりしている児童も、自分の分かることを発言することができます。(南生田小)

小グループにすることで自分の考えを表す機会が増えます。それによって安心して授業に臨むことができます。

課題を解決する学習でグループ活動を取り入れることで、自分たちの課題を意識して、解決に向けた協働的な学びが展開されるようになります。

顔を寄せ合い夢中に話し合っています。その近くでは個人で自分の考えを一生懸命記入しています。一人一人が自分の活動を行うことができている状況です。(東柿生小)



理科室や木工室では少人数グループ(3~4人編成)で実験や作業が行われます。そのグループで継続して考察等の話し合いが行われます。(塚越中)

英語ではペアワークやグループワークが行われるなど、教科の特質や活動内容等によってグループの形態を変えることもあります。

グループ学習の成果を発表することで、表現力を高めるとともに、成就感や達成感が得られることが期待されます。

グループでの話し合いの結果を発表しています。成果を共有することで、他のグループの学習の成果が自分のものにもなります。(塚越中)



学校全体で取り組む小グループでの「学び合い」 (南大師中)

さまざまな教科等で4人グループによる学び合いを実践しています。

編成の工夫

男女2人ずつ混合の4人グループになるようにしています。男女が交互になるように座り方も工夫しました。



男女混合の班にし、男女の席をクロスさせたら、話し合いが活発になりました。

家庭科では、作業速度が異なるペアをつくり、ペアで学び合って学習を進められるような工夫もしています。

課題に応じて、グループで考えてから、その後、個人で考えるなど、個の学習が高まるようにグループ学習を取り入れています。

指導の工夫

学校全体で少人数グループによる授業に取り組みました。多くの授業で、同じ形態で学習することにより、グループ学習の日常化が図れました。



自分の考えを資料等を用いて伝え合う姿が見られます。

グループ学習が日常化することで、教員の役割が変わってきました。教員は、学習の課題を明確にし、課題を解決する話し合いが行われているかどうかの状況を把握し、課題解決に向けた助言と進行を行うことが授業での大事な役割になりました。

グループでの活動では、生活経験等が異なる生徒が、それぞれの生活から得た知識を生かしながら学習を進められます。

グループ学習後の発表では、作成された原稿を読むだけの発表ではなく、グループで話し合ったうえで高められた個人の考えを相手に伝えようとする発表になりました。

少人数グループの学習が活発になることで、新たな悩みも生まれました。

多くのグループに対して机間指導で助言するのはとても大変だなあ。教員が2人いればもっときめ細かく指導できるのに・・・

みんな一生懸命に自分の考えを伝え合っている。でも近くのグループの声が混ざってしまって聞き取りづらくなっているなあ。

1人の教員が机間指導で助言するためには、課題によってグループ数を検討したり、課題の種類や内容を絞ったりすることも必要です。

少人数編成での学習を行うことのできない教科でも、少人数グループで学習を進めることで、生徒一人一人の活動の場が増え、より生徒主体の学習に近づけることができます。また、1つの教科だけで行うのではなく、学校全体で取り組むことがより高い効果を生むポイントです。

また、1人の教員が各グループに適切な指導を行うためには、課題の内容やグループ数についても、状況に応じて検討することが必要です。

5 さまざまな機会を活用する

授業時間内で個別指導を行う

○橘小では、算数の時間に少人数教室において基礎的な学習中心の指導を行っています。教員による判断ではなく、児童が自分で判断して少人数教室へ行って学習を行います。単元ごとに自分で判断するので、人数は単元ごとに異なります。



○塚越中、南大師中では、授業時間内での個別指導をいくつかの教科で実施しています。例えば、体育の授業では、技能面でのねらいに達していない生徒に対し、それを改善する個別指導を行っています。学習指導案にも具体的な指導の手立てが盛り込まれています。

☆少人数での学習や習熟の程度に応じた学習でも、遅れが見られる児童生徒には、教師が個別指導を行うことが必要です。年間を通じて個別指導をするのではなく、学習内容に応じて判断したり、遅れを取り戻すことができたと考えられた場合は学級に戻したりするなど、状況に応じた手立てが必要です。

授業以外の時間を利用して学習の定着と学習状況の判断を行う

朝学習を利用して子どもの学習状況を判断しました。(東柿生小・橘小)



朝学習で算数の問題にチャレンジ

○朝学習において継続して学習の定着を図りました。

○東柿生小では、算数の単元の終わりに、まとめの問題に取り組みました。自分の学習状況を知ることで習熟の程度に応じた学習コースを自分で選択することができました。

中休みを利用して個別に指導しました。(南生田小)

○南生田小では、中休みに自分の希望で少人数教室に行き、個別に学習を行いました。

☆継続した取組と教員の助言で、自分の学習状況の適切な判断が可能になります。

☆夏休みなどの長期休業を利用した取組も考えられます。例えば、「サマースクール」などの補習的な学習で、習熟の程度によるコースを設定したり、夏季休業の課題として、習熟の程度により異なる課題を用意して、児童生徒が選択して取り組んだりすることも考えられます。

1 教員集団の意識を高め組織的に取り組みましょう

第2章で紹介した研究推進校の取組を、各校で実践するために必要なことを第3章で示しました。



教員集団の意識を高める



複数の先生で授業を行うようになって、先生方が授業の話をする機会が増え、チームワークが高まりました。

習熟の程度に応じた少人数編成では、指導と評価の計画を綿密に打ち合わせることが大事です。



研究推進校の先生方から、上のような声が聞かれました。

少人数編成による授業等、複数の教員で授業を行うためには、指導計画や児童生徒の学習状況等について教員同士の情報交換や共通認識が必要です。また、それにより教員のチームワークや意識の高まりが期待できます。

学校全体で取り組む工夫

より効果的に習熟の程度に応じた少人数編成等のきめ細やかな指導を行うためには、学校全体で組織的に取り組むことが重要です。そのために、推進委員会等の組織を編成することが考えられます。

『きめ細やかな指導推進委員会』（例）

- 全体計画・年間計画の作成
 - 時間割の作成、授業調整
 - 校内研修会の企画・運営
 - 指導計画の作成
 - 少人数指導のコース編成
 - 保護者への説明の計画・実施
 - 学校評価
- など

	1	2	3	4	5	6
6-1	国	学	社	算	家	家
6-2	道	理	算	国	社	学
6-3	国	社	総	算	理	理
6-4	国	社	理	理	算	道
6-5	国	道	算	社	体	総
	1	2	3	4	5	6
5-1	算	体	国	英	理	図
5-2	国	算	体	社	英	国
5-3	英	算	家	総	社	国
5-4	算	英	国	社	学	体
5-5	国	算	英	体	総	道

複数の学年で少人数編成による学習が展開される場合、特に時間割の工夫が必要です。

橘小学校では、第5、6学年の算数で少人数担当教諭が1人で対応するために、左のような時間割をつくっています。

学級担任は自分の学級の算数の指導を行い、少人数担当教諭が2クラス合同の基礎中心コースを受け持っています。

基礎中心コースの担当者は第5、6学年で1人なので、算数の時間が第5、6学年で重ならないようにしています。

習熟の程度に応じた学習等のきめ細やかな指導に取り組むことで、学校全体のチームワークが高まり、教員集団で児童生徒一人一人の学力を育てていこうという意識が生まれます。そして、組織を充実することで、より効果的に学力を高めていくことにつながります。

2 児童生徒や保護者の理解を図りましょう



どうして自分は〇〇コース？
〇〇コースだとよい評価にならないのかなあ。

コースによって劣等感や優越感が生まれたりしないかしら？
〇〇コースでは学力がつかないのでは・・・
どうしてウチの子は〇〇コースなのかな？



習熟の程度に応じた指導を行うに当たり、児童生徒や保護者のこうした不安や疑問を解消することが必要です。そのためには、児童生徒や保護者に対する理解を深める工夫が大事です。

(1) 児童生徒の理解を図る

習熟の程度に応じた少人数編成の学習を行う際、この学習のよさなどを児童生徒に対して理解させる必要があります。その例を示しました。

- 友達に自分の考えを伝える機会が増えたり、分からないことを先生や友達に聞きやすくなったりします。
- 自分に合った課題に取り組むことができ、分からないことが分かるようになります。
- 選んだコースで評価が決まるわけではありません。どのコースでも、学習のめあて（ねらい）は同じです。

これらとともに学習計画を示したうえで、児童生徒が自分でコース等の選択ができるように支援します。その際、児童生徒が自分の学習状況を把握していることが大切であり、そのための手立てが必要です。

(2) 保護者の理解を図る

保護者の理解についても、児童生徒と同様に、習熟の程度に応じた学習のよさを伝えることが大切です。それとともに、コース編成やコース選択の方法を説明する必要があります。

これらの情報提供はさまざまな機会を利用して、計画的に行います。

- | | |
|----------------|----------------------|
| ○授業参観、学級・学年懇談会 | ○PTA総会、学校説明会、教育課程説明会 |
| ○学校・学年・学級だより | ○学校評価 |
| ○個人面談 | ○児童生徒のノートや作品 |
| | など |

児童生徒が生き生きと学習している様子を見たり、児童生徒の学力の高まりを実感したりすることが、保護者の理解につながります。また、保護者からの感想や意見等を計画的に聞き取ることも大切です。

習熟の程度に応じた学習のよさは、児童生徒の「分かった」が増えることです。それによって教員も保護者も、きっと「子ども」をほめる機会が増えるはずです。そして、児童生徒の自己有用感の高まりが期待できます。

各研究推進校の取組から、習熟の程度に応じた少人数学習等のきめ細やかな指導についての成果や指導のポイントが明らかになってきています。

それらをもとに、各学校で取り組むにあたってどのようなことに配慮したり工夫したりして取り組めばよいのか、チェックリストにまとめました。

きめ細やかな指導・学びのためのチェックリスト

1 自分を振り返ってみよう！

<学習状況の把握>

- 児童生徒一人一人の学習状況や興味・関心等の把握を行う工夫を行っていますか。
- 児童生徒が自分の学習状況を把握したり、振り返ったりする工夫を行っていますか。

<単元構想・教材研究>

- 児童生徒が学習のねらいを達成できることを目指した授業づくりや教材の工夫を行っていますか。
- 児童生徒のつまずきを把握し、それを克服する授業づくりや教材の工夫を行っていますか。

<学習環境>

- 児童生徒が安心して学習に向かうことのできる環境づくりに配慮していますか。
- 児童生徒一人一人の活動が保障される環境づくりに配慮していますか。

<指導方法>

- 一人一人が自分の課題をもち、課題の解決に向けた学習展開ができるような工夫を行なっていますか。
- 編成された学習集団で協働的に学習が進められるような工夫を行っていますか。

<学習評価>

- 指導に当たる複数の教員で各単元における評価規準や評価計画等の共通理解が図られていますか。
- 指導に当たる複数の教員で児童生徒の学習状況の評価を行っていますか。

2 みんなで考えよう！

<学習形態>

- 児童生徒の学習状況に応じて適切な学習形態を設定していますか。
- 少人数編成での学習で、目的に応じた適切なコース編成を行っていますか。
- 少人数編成での学習で、児童生徒が納得してコースを選択できるような工夫を行なっていますか。

<学校体制>

- きめ細やかな指導について教員同士で語り合うことのできる雰囲気できていますか。
- きめ細やかな指導について教員同士で語り合うことのできる時間や場の設定がされていますか。
- きめ細やかな指導について学校全体で振り返り、改善していく体制ができていますか。
- きめ細やかな指導について児童生徒の理解や保護者の理解を図る工夫を行っていますか。



チェックリスト1は個人で常にチェックしてほしいこと、チェックリスト2は学年や学校全体で意識してほしいことです。ぜひ、校内研修や学校評価等で取りあげて、みんなで考えてみてください。



「わかった！」があふれる教室をめざして
～一人一人の学習状況に応じたきめ細やかな指導の取組～

平成 26 年度

きめ細やかな指導・学び研究推進校 実践事例集

発行日 2015 年（平成 27 年）3 月

編集・発行 川崎市総合教育センター

カリキュラムセンター

TEL. 044-844-3720

